

めざす学校の姿

「学校は、子どものためにある」ことを、全教育活動の基本におきたい。中心は子どもである。学校には個性豊かで特性をもった子どもがいる。その一人ひとりの子どもがかけがえのない人間として尊重され、その子なりのよさや可能性を最大限に伸ばし、子どもが自己実現を図りながら、社会人となるための基礎的・基本的な能力態度を培う教育を推進したい。

そのためには、学校は、子どもにとって伸び伸びと過ごせる楽しい場所であり、分かりやすい楽しい授業が展開され、笑顔で接し、余裕を持ち、あたたかく受け入れ、子どもの目線で話す教師がいて、学習に躓いたり思考錯誤しながら、子ども同士が互いに切磋琢磨して、いろいろなことを理解し成長していく場所であればならないと考える。

そして、精神的に安定し、豊かな感性を備えた人間らしい人間の育成をめざしたい。

また、学校は、人との係わり合いの中で切磋琢磨しながら成長していく場所である。特に、人との係わり合いの中心となるのは担任であり、学級の友だちである。その学級が子どもたちにとって「安心できる居場所」である必要がある。そのためには、担任は学校教育目標につながる学級経営案そして具体的目標を設定し、子どもの立場に立って教育にあたる必要がある。

良好な友人関係の確立と学級担任との信頼関係が確立している時、子どもの心は安定し、安心して学習できる環境が成立する。このとき、子どもの学力は自ずと伸びていくはずである。

また、学校は子どもにとって安全な場所であってはならない。学校での学習や遊びを通して、充実感を持ち、「学校が楽しい」と思えるような学校でありたい。そのため、教職員は教育者としての専門的な力量を高めるためのたゆまぬ自己研鑽に励み、豊かな人間性をもたなければならないと考える。

そして、子どもをよりよく育てたいという気持ちは、保護者も教職員も同じである。また、子どもは、将来地域を支える宝である。このことを考えれば、家庭・地域・学校は、みんな同じ気持ちで協力して子どもたちをよりよい方向に育て、慈しんでいけるはずである。

そこで、子どもの教育には、家庭・地域・学校との連携と協力そして役割分担が必要となってくる。

学校は、より一層開かれたものとし、学校の教育目標や教育活動等の情報を積極的に発信したり、学校評価等で家庭・地域の声を受容したり、地域の人材・施設・環境等を学校教育に活用したりしていくことが重要である。

特に本校では、地域行事への参加を積極的に行い、地域の人たちとの交流を大切にして、地域の人たちの考えや願いに答え、地域の文化を伝える役割を子どもたちと共に担っていきたい。

学年毎の具現化（学年目標）

	すすんで学ぶ子	思いやりのある子	ねばりづよく努力する子	明るく元気な子
1年	いろいろなことに興味をもち、自分で考えようとする子	みんなと仲よく活動できる子	めあてに向かってがんばる子	身体をつかって元気に遊べる子
2年	いろいろなことに興味をもち、自分で考えて解決しようとする子	だれとでも仲よく遊んだり活動したりできる子	学級や自分のめあてに向かって最後までがんばる子	いつも元気にみんなと遊べる子
3年	興味・関心をもって自分の学習を最後まで進める子	友だちの気持ちが考えられる子	めあてに向かって、最後までねばる子	体を動かすことが好きな子
4年	興味・関心をもって自分の学習を最後まで取り組める子	相手のことを思いやっ て、親切にしようとする子	目当てに向かって最後まで粘り強くがんばり抜ける子	健康に過ごせるよう意識できる子
5年	色々なことに興味・関心をもち、進んで調べようとする子	相手を分かるうとし自分の考えを分かるように伝えられる子	目当てと向上心をもって、最後まで努力できる子	健康に関心をもち、積極的に取り入れようとする子
6年	多くのことに興味・関心をもち、進んで学ぼうとする子	互いの考えや気持ちを伝え合える子	よりよい自分や集団をつくるために継続して努力できる子	健康に関心をもち、節度ある生活ができる子

教職員の姿勢

- * 全教職員が、全児童の担任という意識で、児童理解に努める。
- * 校務・学級経営・授業実践などについては、提案型の教職員をめざす。
- * 心身の健康に留意し、向上心をもって、研究と修養に努める。